

令和元年12月 市長定例記者会見

2019年11月19日(火)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから12月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答が終了しましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数ですがご自席のマイクをご使用いただきますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

【市長】 12月の定例記者会見よろしく願いいたします。本日は12月議会の告示日となりますので、11月26日から12月17日まで開会されます議会に対しましての補正予算や条例をこれから発表させていただきます。

それから、先日はダイヤモンド・プリンセスが来ましたし、物産展もありましたし、それぞれいろんな行事も行っていただきまして、非常ににぎわいができたかなというふうに思っておりますし、その前の週につきましては、国際交流フェスティバルということもありましたので、ポーランドの事業が今年はいろんな事業ができましたので、非常に有意義な日になったんじゃないかなというふうに思っております。

それにあわせて、ポーランドのホストタウンにも選んでいただきました。来年はポーランドの孤児100周年でございますので、それにあわせていろんな行事を組み立てていくんじゃないかなというふうに思っております。

それから、遅くなりましたけれども、先日、道口で介護を苦にしたと思っておりますけれども殺人事件がありまして、亡くなられた方に対しまして心からお悔やみを申し上げる次第であります。介護のあり方というのをいま一度考え直さなくてはいけないなというふうに改めて感じているところでございます。

【秘書広報課長補佐】 では続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 では、1つ目は12月の補正予算概要でございます。

今回の補正予算につきましては、給与改定等による人件費の調整を中心に、9月補正以降に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、総務費では、ふるさと納税の寄附見込み額増加に伴う返礼品の送付等に係る経費を計上し、また、令和2年度に伴う産業間連携の推進等に係る債務負担行為を設定いたしました。

民生費では、令和2年度に契約の更新を迎える保育園給食調理業務に係る債務負担行為を設定いたしました。

商工費では、本町1丁目商店街振興組合が行うアーケード整備に係る補助金を、農林水産業費では、中山間地域において集落の水田営農の維持を図るために必要な機械等購入に係る補助金を計上いたしました。

教育費では、小学校教科書改訂に対応するための教師用指導書等の購入費や、金山体育館の駐車場整備に係る用地購入費等を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

それから、発表項目ですけれども、GREEN PICNIC 2019～つるが環境フェア～の開催についてでございます。

身近な自然や環境について考えていただくことを目的に、12月14日土曜日に、きらめきみなと館におきましてGREEN PICNIC 2019～つるが環境フェア～が開催されます。メインステージでの講演や発表を初め、体験型のワークショップやパネル展示コーナー、キッズスペース、環境や体に優しい食事ブースの出展など、幅広い世代が一日中楽しみながら環境に触れ合える充実した内容となっております。

主催のつるが環境みらいネットワークを初め、日ごろから環境活動に取り組む市民、団体、企業などが共同して、手づくりで企画運営するイベントですので、多くの市民の皆様のご来場をお待ちしております。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと思っております。本日は幹事社さんが出席されておりませんので、各社お伺いをさせていただきます。発表項目につきまして、ご質問等あれば挙手をよろしく願います。

【記者】 GREEN PICNICのほうで1点お伺いしたいことがありまして、中に入っている水素エネルギーの供給システム展示とありますが、これは具体的にどういった展示なのかというのと、ここにイベントで使用する電力の一部を水素発電と書いていますけれども、どの程度くらいになるのか。わかれば願います。

【市長】 東芝のH2Oneが展示していただけるのと、トヨタの水素車MIRAIというのを試乗運転できるということを聞いていますが、もう少し詳しいことは担当のほうから答えます。

【環境廃棄物対策課長】 H2Oneといいますのは、自立型水素エネルギー供給システムのH2Oneというものでございます。再生可能なエネルギー、太陽光で水を電気分解して水素をつくり、その水素を貯蔵して必要ときに電気と熱に変えて使うというものをパッケージにし、車載型といまして車の上に載せて持ってきてもらいまして、それを展示するものでございます。

あと供給する電気ですが、最大で19キロワットということで、会場内における電力供給を予定しております。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 補正予算の中に、今開かれています100条委の予算というのは盛り込まれているのでしょうか。ないとすると、多分そういうお話が議会のほうで出ていますが、どういうふうに対応されるおつもりでしょうか。

【市長】 担当のほうから答えます。

【総務部長】 金額とかにつきましては、議会費の中で賄う。既存予算の中で流用等を行いまして執行したいというふうに考えております。

【記者】 特に新たに予算を組んでというか、今ある予算を使ってということ今考えて

いるんですね。

【総務部長】　そうです。

【記者】　わかりました。

【秘書広報課長補佐】　ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へに行きたいと思います。こちらも幹事社さんお休みですので、皆さんにお聞きしたいと思います。ご質問等あれば挙手をよろしくお願いいたします。

【記者】　市長、冒頭、今回の道口での事件を受けましてお話しされたと思うんですけども、介護のあり方、いま一度見直しということですが、この事件が起こった直後ですけども、市長の頭の中で介護のこういった部分をどう考えていかなければいけないのかということをは何か一端でもお話しいただければと思います。

【市長】　事件の中身というのは、私どもも詳しくは存じ上げていないんですけども、3人の方を介護されていたということで、一般に考えれば施設にということをお考えですけども、お一人は要支援2、お一人は要介護1、もう一人が支援とかの該当ではなかったということをお考えますと、それぞれの人というのは敦賀の今の状態ではなかなか入れない状態だろうと。ただ、3人合わせると非常に大変なことだろうというのは思いますので、個々の介護認定度とかそういうこと以外に、家族の背景とか構成とかいうのも含めたことをもう一回考え直す必要があるんじゃないかというふうに思っています。

【記者】　確認なんですけど、個々の状況に応じて、必要なものがあれば何かしら手を差し伸べる仕組みが必要だというふうなお考えでしょうか。

【市長】　そうですね。ですから国全体の制度ということも含めてになってきますので、直ちにとすることはできないかもしれませんが、ある程度そういう勘案できる方法とか、例外的な措置とかいうのが考えられないかなということは模索していきたいというふうに思っています。

【記者】　関連で、今回の事件を受けて、改めて今おっしゃったことの検証とか具体的な、まだ時間もあれですけども、対策、今後取り組んでいくというような考えでしょうか。

【市長】　今回のことという、これがきっかけになるだけで、この事件を詳細に分析したりするのは私どもの仕事ではありませんので、そこは警察にお任せするんだと思いますけれども、例えば、移住定住をするにしても、移住してきた人たちは、新たにきた人たちは2人で生活するわけですから家族の援助は得られないとか、そういういろんな個々によって状況が違うと思いますので、そういうことも考えられるような行政のスタイルというのは一つ考えていかなくてはいけないのかなということを改めて認識したということになると思います。

【記者】　重ねてですけども、今後のお話をされたので一応確認させてください。市側としては、何か相談があったり、SOSとかそういうものがあるというようなことは把握されたりということは、どうだったのでしょうか。

【福祉保健部政策幹】　今回のご家族さんのケースにつきましては、家族さんとか関係機関のほうからの相談は、市のほうでは受け付けておりません。

以上でございます。

【記者】　そうすると、市長がおっしゃったように、今の仕組みではなかなか助けに入る

というのは難しいという状態ということになりますか。

【市長】 私が答えているのは、個々の事案ではなくて、一般的にそれをもう一回考え直したときに、そういうことになるんだろうなという推定がありますので、そういう体制をつくっていかなくてはいけないんだろうなということは思います。

【記者】 関連なんですけれども、個々の事案に対しての対応とおっしゃいましたが、もうちょっと具体的に、どういうことが対応策として挙げられそうかというのは、何かお考えはありますか。

【市長】 ご家庭で認知とか介護とか必要になってきたときに、そのレベルによって入れる優先順位というのがありますので、そういう状態で判断していると思います。それが何人も重なって1人で何人もみるという状態というのは余り想定していませんので、家族構成とか、また親戚の人が近くにいたりとか、手伝える状態なのかどうかというのをある程度は考えていかなくてはいけない世の中なんだろうなということを思います。

【記者】 追加なんですけど、今回の事案は、あくまでさっきおっしゃったきっかけというところなんですけれども、今回の事案を含めて、同種の事案がないかとか調査して、よりセーフティネットの幅を広げたり、そういったことは考えていらっしゃいますか。

【市長】 今回の事案については、詳しくは警察が調べると思いますので、今回は殺人事件ですので、今回の事例をどうのこうのというのは、ちょっと控えたいと思います。

【記者】 別件になるんですけれども、今回、12月議会の議案で、中池見のビジターセンターなどの設置管理条例を提案される予定だと思うんですけれども、改めてなんですけど、今後、中池見の保全に対して市としてどのように関わっていくか、お考えを教えてください。

【市長】 中池見の現状といいますと、基金がありまして、それをずっと使いながら運営してきたというところがあります。このままではいけないということで、数年前に、お互いに行動計画をつくって、それで乗り越えましょうというのをつくってあります。そのとおりに行けてないので、今どうしたらいいかというのを悩んでいる状態なので、その辺をしっかりと約束どおりやるのかどうかというのを決めていただかないと、なかなか前には進めないなというふうに思います。

もう一つは、中池見のラムサール条約で、たくさんの人を呼びたいのか呼びたくないのか。ここがなかなか皆さんの意見が分かれるところで、たくさんの方を呼びたいのであれば、ポスターをつくったり観光誘客をさせていただきたいですけれども、そうするとだめなんだ、自然が壊れてしまうんだという考え方の方たちもいらっしゃいますので、その辺が統一されないとなかなか手が打てないというのが正直なところです。

【記者】 保全と活用のどちらか一方というのは、なかなか難しいと思うんですよね。そのバランスというか、両方をどうやってうまく調和させていくかということだと思えますけれども、その辺で市として指導力を発揮するようなお考えはないですか。

【市長】 市が関与する場合としては、観光誘客を含めてやっていくことになると思いますけれども、それに対する反発はあろうかと思えますので、その辺がどの辺でおさまるのかというのが条例の次のステップですね。その次のステップとしてどうしていくのかというのは、これから探していかなくてはいけないと思いますけれども、それぞれにどちらも正しいという方たちがいらっしゃいますので難しいと思います。

【記者】 今後の話になるんですけども、これでうまく回っていけばいいなと思うんですけども、そうならない場合、基金が枯渇する。枯渇した場合に、市長、以前、一般財源の投入というのはお考えにならないというふうなご発言もされているかと思うんですけども、そのお考えに今も変わりはないですか。

【市長】 そうですね。今の中でどうやっていくかということになりますし、人を呼ばずに、このまま基金がなくなるまで続けていくということは、呼ばなくてもいいという形になるでしょうから。そうすると、余りビジターセンターの維持とか通路の維持とかいうのがどういう形になっていくのかというのがはっきりしない状態だと思います。

【記者】 関連の質問なんですが、先ほど基金があって尽きそうなので、そのための行動計画をつくったと。ただ、約束どおりやるのか決めないと前に進めないんですということをご説明されていましたけれども、具体的にいうと、どのことについてお話しされているのか確認させていただいてよろしいですか。

【市長】 行動計画は、行動計画の表がありますので、それを見ていただければいいと思いますけれども、その中で敦賀市が担う部分とNPOとかほかの方が担う部分とありますので、それをそれぞれにやらないといけないというふうに思います。

【記者】 今の続きですけども、NPOと敦賀市、NPOさんとかいろんな団体さんと敦賀市がやることが決まっていますという大体の仕組みというか、それはわかるんですけども、そうすると、今のところ市側としては、ボールに例えるのがいいのかわかりませんが、今後のアクションというのは条例をつくります。その先どうしていくかというのは、協議会も含め、周りの方々側に今投げられているという状態というふうに理解すればいいんですか。

【市長】 そうですね。条例をつくる目的といいますのは、例えばビジターセンターの中で物品販売なんかをできるようにするということになりますので、そういう意味ではいろんな方が使いやすくなるというふうに思っていますので、そこからどんなものが派生していくかというのは期待しているところです。

【記者】 それを見ていって、市のほうもどういうことを、以前、応援という言葉が使われたと思いますけれども、やっていくかという形で決めていくというようなイメージですか。

【市長】 そうですね。ですから、いろんなやり方があると思うんです。今の世の中ですから、インターネットでそういう関連したものを売るとか、いろんな方法がありますので、どういうことをご自分たちで、私らがこうしなさいじゃなくて、ご自分たちでこうしようかみたいな決まってくると勢いが出てくるんだと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして12月の市長定例記者会見を終わります。

ありがとうございました。

午後1時50分 終了